

日本OT協会地域社会振興部が新設されました

地域社会振興部

地域事業支援課

- 地域包括ケア推進班
- 認知症対策班
- 運転と地域移動対策班
- スポーツ振興班

昨年度までは地域包括ケア推進委員会として活動しておりましたが、今年度より、地域社会振興部が新設されました。それに伴い、旧委員会は地域包括ケア推進班として活動することとなりました。新たに示された地域共生社会5か年戦略のスローガン「人々の活動・参加を支援し、地域共生社会の構築に寄与する作業療法」を目指し、重点活動項目と第四次5か年戦略関連活動を積極的に進めていく方針です。

今年度の重点活動項目として、OT 参画のための市町村担当者設置事業、協会一士会連携・士会間連携（ブロック機能）事業、「保健事業と介護予防の一体的実施」参画事業、そして第四次5か年戦略関連活動として、短期集中型サービス以外の医療から地域（在宅）への取り組み促進事業、「短期集中型サービス」の参画促進事業、地域事業参画推進のための士会マネジメント事業、「重層的支援体制整備事業」の実態を把握と参画推進事業等を、部員23名体制で進めて参ります。

第1回地域事業支援会議開催

今年度第1回目となる会議は、2023年6月23日（金）の19時から、オンラインで開催され、200名以上の方が参加されました。当県士会からは、選任者として、村木敏子（大村市地域包括支援センター）、坪田優一（愛野ありあけ病院）、聴講者として、鎌田秀一（日見中央病院）、松尾忠昭（公立小浜温泉病院）、畑田美恵（大村共立病院）が参加しました。

会議では、新体制の報告と7つの重点活動項目とその他の実行业務について説明がありました。

長崎県士会はFブロック



ブロック別のグループワークが開催され、長崎県士会はFブロックの所属となりました。ブロック内の話し合いでは、自己紹介と今年度のブロック会議について、今後の協会一士会連携について話し合いました。中心として話し合われたのは、協会からの情報をいかに士会、士会員に伝達するかでした。各士会での伝達方法を確認しながら、いい方法を各士会持ち帰り検討するなどの協議がなされました。

協会からの伝達方法として、広報誌の活用やニュースレターの活動などを取り入れ、会員に情報発信を行っていきとありました。今後は、ブロック会議や地域事業支援会議等を通じて情報を共有していきたいと思ひます。

地域社会振興部

地域事業支援課

- 地域包括ケア推進班

地域共生社会5か年戦略・重点活動項目関連事業の企画実行业務

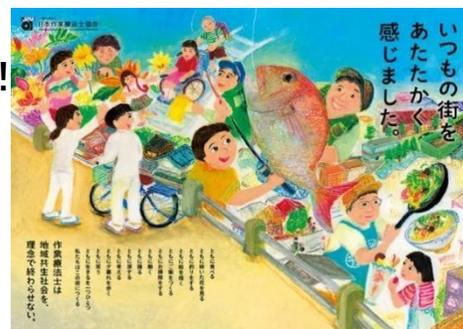
- ① 医療から地域（在宅）への移行促進 事業
- ② 「短期集中型サービス」の参画促進 事業
- ③ OT参画のための市町村担当者設置 事業
- ④ 協会一士会連携・士会間連携（ブロック機能） 事業
- ⑤ 地域事業参画推進のための士会マネジメント 事業
- ⑥ 「重層的支援体制整備事業」の実態を把握と参画推進 事業
- ⑦ 「保健事業と介護予防の一体的実施」参画 事業

その他の企画実行业務

- ① 地域共生社会対策委員会関連
- ② OT参画実態調査 関連
- ③ 地域事業支援会議の企画運営 関連
- ④ 協会誌、ホームページを活用した情報提供 関連
- ⑤ 地域人材育成システムの管理 関連

作業療法士は地域共生社会を理念で終わらせない！

「ともに〇〇」をキーワードに、障害がある方もない方も、子どもも大人も、みんなが笑顔で暮らしている社会をイメージし、書かれたポスターです。ポスターの最後には「作業療法士は、地域共生社会を理念で終わらせない」と強い意志を表しています。このポスターを見た方が「こんなあたたかい街がいいな」、「私も地域社会をともにつくりたいな」と心に誓う……などということがあれば、うれしい限りです。



編集後記

新たな部の新設と今年度初めてのキックオフ会議でした。今まで参加されていた顔ぶれから初めての方まで、活気あふれる議論の中、無事に第1回の会議を終えることができました。参加者の活気に負けないように、我々部員も気を引き締めて取り組んでいこうと思ひます。長崎県士会 担当：坪田